

課題対応取組み報告書

名称	港区港南地域総合相談窓口					
提出日	令和6	年	7	月	2	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	要援護者を早期発見するためのネットワーク構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①8050, 9060などの多問題ケースが増加。 (地域と専門機関の連携による要援護者の早期発見と支援介入をいかにスムーズに行うか) ②支援におけるそれぞれの立場での役割の理解。 (支援についての意見交換を活発にできる関係を築くことで、利用者の最善の利益につながる)	
対象	①地域の高齢者 ②地域の支援関係者と支援機関	
地域特性	【市岡地域】高齢化率は22%で、港区全体の高齢化率27%と比較すると、新しいマンションやファミリー向けの新しい戸建てが立ち並ぶ地域もあり、高齢化率は緩やかである。一方、昔からの古い集合住宅も残っている。ネットワーク委員会、民生委員協議会などの地域支援者の活動が活発である。43号線やみなと通りなど大きな道路に囲まれており、車の往来が激しい。 【田中地域】築年数の古い集合住宅、戸建てが点在している。高齢化率は26%で、市岡地域と比較すると高い。朝潮橋駅があり、スーパーやコンビニ、診療所も多く、生活至便な地域である。 (高齢化率：令和5年3月末時点 大阪市統計 大阪市住民基本台帳より)	
活動目標	①小さなことでも気軽に相談できる関係を築くことで、要援護者の早期発見を目指す。 ②地域と専門機関のそれぞれの強みを活かし連携できる体制づくりの構築。	
活動内容 (具体的取組み)	①地域で開催されている、いきいきサロンや喫茶、配食サービス等に参加し、定期的な情報交換を行った。 ②地域行事で、地域住民からの相談対応や行事終了後の見守り訪問などを行った。 ③月に1度港区社会福祉協議会にて開催されている地域見守りコーディネーター連絡会への参加、担当圏域内外の地域見守りコーディネーターと連携体制の構築と情報交換を行った。 ④地域包括支援センター連絡会に参加した。 ⑤港区3総合相談窓口(ランチ) (以下「ランチ」という) で定期的に情報交換会を開催した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①地域行事に積極的に参加することで、地域関係者と顔の見える関係を構築し、地域のニーズや実情についての情報を把握することができた。 ②地域住民の口コミにより、ランチへの来所相談があるなど、気軽に相談できる窓口としての周知効果があった。 ③担当圏域内外の情報を共有することにより、地域ごとの違いやニーズ、それぞれの強みなどを知ることができ、担当圏域での支援に活かすことができた。 ④包括との連携体制を強化することができ、情報共有やそれぞれの役割、他機関との連携などについての意見交換を行うことで、スムーズな支援ができた。 ⑤港区の3ランチで顔の見える関係を構築し、港区全体の情報共有や地域との連携、ランチの役割などについて意見交換を行い、担当圏域の支援に活かすことができた。	
今後の課題	・対象者の課題が大きくなってから相談機関に連絡がくるケースがあり、引き続き包括・ランチの存在とその役割や連携方法についてのさらなる周知が必要。 ・要援護者の把握や発見後、要援護者が住み慣れた地域で生活していくために、地域支援の有効な活用方法についての検討とその継続的な見直しが必要。 ・町会未加入者や転居してきた方など、町会で把握しにくい地域高齢者住民の把握。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月26日(金)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	地域性と継続性が特に評価できる。 ・早期発見・介入の為相談会や早い対応にて声の拾い上げが行われ今後活動の効果が期待できる。・ ・課題が大きくなってからの相談に対し、予防の観点や前もって不安をうかがう等周知の仕方を変えてはどうか。 ・皆で見守るシステムづくり・スキルアップに向け包括も交え体制の検討・関わり方に困っている部分をピックアップし勉強会の企画は有効ではないか。 ・個人情報と地域活動に対しては支援者からの困りごと・困る場面・目指す関わりを整理してからルールを検討してはどうか。 ・住民便利帳や地域の相談先チラシの配布という形で住民との繋がりづくりはどうか。 ・口コミにより、相談につながり、周知効果があることが評価できる。 ・包括との連携強化により、他機関連携につながったことがよかった。 ・一人であるにも関わらず積極的に多方面に関係して要支援者を早期発見している。さらに前向きに取り組んでいただければよい。

課題対応取組み報告書

名称	港区市岡東地域総合相談窓口				
提出日	令和6	年	7	月	4日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	社会的孤立となっている高齢者やその世帯の支援	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・同居世帯については見守りの意識が希薄になりがち。潜在化している可能性がある。 ・8050世帯のこども世代が支援につながりにくい。 ・ケアマネジャーやサービス提供事業所と協力し、役割を明確にする。地域の方との連携方法の検討。	
対象	地域の孤立している高齢者とその世帯	
地域特性	担当圏域：波除地域（波除、市岡元町）、南市岡地域（南市岡1丁目、2丁目） ・波除地域 高齢者人口：3,051名 65歳以上のひとり暮らし世帯：1,237世帯 ・南市岡地域 高齢者人口：756名 65歳以上のひとり暮らし世帯：345名 （2024年4月1日時点 認知症高齢者等の実態把握のための資料より）	
活動目標	社会的に孤立している高齢者やその世帯の支援のための多機関連携の実施	
活動内容 (具体的取組み)	・地域で見守りを行なっている地域見守りコーディネーター会議への参加 ・民生委員向けのワークショップに参加し、普段活動されている様子や思いなどを聞き、意見交換を行なった ・地域支援事業(4事業) 連絡会への参加 ・相談支援機関の連携・協働のための研修に参加 ・法人主催・総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）共催の地域活動、車いすの無料貸与を行なった ・3ランチ情報交換会の実施	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域包括支援センター、地域見守りコーディネーター、地域ネットワーク委員、民生委員、地域住人、ランチで協働して見守り、支援を行ったケースがあった。 ・高齢者のことだけでなく、その家族の支援も含め医療機関、ケアマネジャー、介護保険事業者、区役所（高齢者福祉担当）区保健福祉センター保健師、認知症初期集中支援チーム、地域見守りコーディネーター、障がい者基幹相談支援センター、見守り相談室、くらしのサポートコーナー等へ相談、連携して支援を行った。 ・新型コロナウイルス感染拡大により地域活動が中止、健康・認知症予防のチラシを配布した。 ・港区内の3ランチで顔の見える関係を構築し、現状把握、連携を図った。	
今後の課題	・すぐにサービス利用につながらないケースも多いため、多機関で協働して見守り等を行なうシステムの構築が必要である。 ・多機関連携のために支援者個々のスキルアップが必要である。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月26日(金)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント	・地域性・継続性・浸透性が評価できる。 ・多職種と連携しケースアプローチが細やかに行われており今後も期待できる。 ・皆で見守るシステム作り・支援者のスキルアップに向け、多職種との連携ケースを3ランチで共有している。成功例から関わり方のパターンづくりや役割等マニュアルのような物を作成してはどうか。 ・高齢者だけでなく、その家族支援も含めて各機関と連携を行い支援しているのがよかった。 ・課題として出ている、多機関で協働して見守りができる良い手法をみんなで前向きに考えていきたい。 ・一人であるにも関わらず積極的に多方面に関係して要支援者を早期発見している。さらに前向きに取り組んでいただければよい。	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		

課題対応取組み報告書

名称	港区築港地域総合相談窓口				
提出日	令和6	年	6	月	28 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☒ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	孤独、孤立を予防しつながりを絶やさない。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	圏域内は市営住宅や単身者向け賃貸住宅が多く、ひとり暮らし高齢者の占める割合が高い。ひとり暮らしであるためキーパーソンが疎遠又は不在で、その場合に介入までに時間がかかることが多かった。特に認知症がありながらひとり暮らしである方には、専門機関へつなぐなどの他、地域の方々の見守りと協力が欠かせない部分である。 認知症の人、その介護に携わること家族への理解を地域の方々に深めていただくこと、金銭管理に課題がある方の意思決定支援が必要かと思われる。 いきいきサロンや配食サービスなどを通じての安否確認が今後も重要である。 地域見守りコーディネーターからの相談も増えており臨機応変に対応していく必要がある。	
対象	圏域内の住民	
地域特性	高層を含め市営住宅が多く、高齢化率が30%前後と港区の中でも高い水準である。 ネットワーク委員会、民生委員協議会の活動が活発で地域見守りコーディネーターとの繋がりも強い。 65歳以上人口に対するひとり暮らし世帯の割合 (港南45.1%築港43.4%) が高い。	
活動目標	地域関係者や専門機関など身近な社会資源との連携を深め協働して支援する体制を構築する。 認知症の疑いや進行が見受けられる高齢者の早期発見、早期対応、介護保険を初めとする適切なサービスや社会資源につなげる。	
活動内容 (具体的取組み)	R5年度はラジオ体操、いきいき百歳体操、ふれあい喫茶、食事サービスや各種サロン活動への積極的な参加とともに、民生委員と協働して地域高齢者への個別訪問に取り組んだ。 定期的に「ランチだより」を発行し、集会での配布や会館での設置、新聞折り込みによる地域への配布を行い当職の周知に努めた。 支援困難ケースに関しては相談初期から地域包括支援センター (以下「包括」という) や認知症初期集中支援チーム等と連携し協働して支援にあたった。 また、包括と協働して地域からの需要の高い出張無料相談会の再開への準備をすすめている。 港区内総合相談窓口 (以下「ランチ」という) 情報交換会を行いランチ職員のスキルアップ、情報交換、連携強化を図った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	「築港ランチだより」の定期発行を2か月に1回行った。ランチのチラシ、新聞折り込み、デイだより、ランチだよりの配布などを通じてランチ周知に努めた。 包括と協働して若年層の福祉教育に力を入れた。築港小学生の生徒さんを対象に車椅子体験を行ってもらい、福祉の考え方、助け合う大切さを学んでもらった。身近で起こった高齢者を狙った詐欺被害への注意を促すため啓発チラシを地域の方々に配布し注意喚起を行った。 また、能登半島地震発生後すぐ、地震への備え注意事項などを書いた啓発チラシを配布した。	
今後の課題	まずは課題の発見が手遅れにならないようにできることを行う。より複雑化、深刻化する課題に対して困っている人になるべく早く発見する。 相談受付 (生活環境を把握する目的で可能な限り訪問する) →課題分析→外部機関とのチーム形成→振り返り分析につなぐスピードが求められる。 声をあげられない方に対するアウトリーチ手法について、ランチがより身近な機関、相談にのってくれる頼りになる存在となれるよう、地域からの情報が集約され活用していただける社会資源としての存在価値を高めていく。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月26日(金)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	・地域性・継続性・拡張性・独自性の面で評価できる。 ・高齢者率が高い地域、孤立防止や認知症を専門機関につなぎ、また地震の際のチラシなども評価できる。 ・高齢化・ひとり暮らし・認知症の地域課題に対し真摯に取り組んでおり活動参加、多職種との連携、学校教育、防災と多彩な視点での地域支援を評価する。 ・身近な総合相談としてランチの存在は大きい。ランチでの活動の工夫や包括との連携、3ランチでの取り組みがランチの意義・価値を高めていけると思う。今後の更なる活動に期待したい。

